

【今回の兼題】

- ①馬 ②氷柱 あるいは雪

近づけば神馬の吐息初十日
○白球を掴むかたちや六花
○日向ぼこ点滴棒と車椅子



哲也



坪庭の名園となる深雪かな
大雪原おもちゃのような列車来る
○軋む世にイマジンを聞くんちゃんこ

瑞枝

樹木葬契約終えて冬薔薇
○勢いも氷柱となりて滝眠る
○冬椿ほどけるように開きおり



紀美

恵子

初雪やにぎにぎポイの真っ赤な手
○イケメンの介護士が好き夜着の母
○重鎮とて何ぼのもんぞ氷柱折る

郁子(土)

北に住む子等の思はる雪ならむ
○馬の顔はみ出す友の年賀状
水涸れて河原の石の白さかな

酔花

○たてがみを夕陽にしまう退職日
大雪に貧しき屋根はかたむきて
たてがみを撫でて夕焼けほいたらね

文子

○はつ春の横浪三里馬牧場
氏神に馬齢を重ね初詣
軒氷柱光まといて消えにけり

えり

通りゃんせお馬の親子日脚伸び

農子

掲示板設置のシルバー雪催
煤逃の洗車の長蛇苦にならず
○外灯の自らの影寒の入

富子

○ぱっくりと妣の戦今も過ぎり
風邪ひきが置いていきしは虎落笛
馬年に駆けられるかと吾に問い

初江

書初めの色紙に馬の落款印
○風花や猫の遺骨のまだ温く
○滝氷柱かすかに川の流る音

千代

○雪ばたるいもうと隠していませんか
ドレミの歌ツララ奏でるペギーさん
雪中花リリと匂ひて座を統べる

ゆの

丞子

疾走の人馬一体初競馬
○鯉沈め笈のつらら朝日ざし
人と香の蠢く参道初詣

郁子(岡)

○焚火の輪炎の先にも祖父
軒氷柱横目に観光バスは行く



迪子

綾子



山下 正雄 作品

少年の目をして野馬の星額
牡丹雪鬼はあなたの中に棲む
滑り来る少女無傷のゲレンデに

★次回市民句会

【開催日時】

令和八年二月十八日(水)

午後一時十五分～午後四時(予定)

【場所】

オーテピア4階 研修室

【兼題】

- ①春隣 ②梅

(他の題材でも構いません)

【初めての方へ】

市民句会は、俳句愛好者の集いです。
どなたでも自由にご参加いただけます。
事前申込や参加費は不要です。

